

視察（研修）報告書

令和 5 年 10 月 19 日

府中市議会議長 様

会派名 創生会

日 時	令和 5 年 10 月 16 日
視 察（ 研 修 ） 先	愛知県 豊田市
視 察（ 研 修 ） 項 目	中山間地域における たすけあいプロジェクト
参 加 者	創生会 公明党
視 察（ 研 修 ） 内 容	中山間地域における高齢者の移動支援の取り組み。 豊田市交通政策課報告 1. 豊田市地域公共交通計画にはコミュニティーバス おいでんバスの活用で交通手段を位置付けている。 2. 中山間地域での地域交通支援は里モビリティの活用で高齢者の移動手段を支援する。 中山間地域の移動手段 たすけあいプロジェクト 目的:容易に移動することができる超小型モビリティを活用し、高齢者の外出を促進することで QOL の向上や健康寿命を延伸し持続可能な地域づくりを目指す。 内容:地域住民自らが超小型モビリティコムスを中山間地域に適した仕様に改造し、日常の移動用として活用することで、超小型移動モビリティの有用性や移動手段の可能性について検証を行う。 成果:コムス利用の高齢者の外出が増加。 高齢者運転の新たな手段、超小型自動車を使用する先進的な取り組みとして全国から視察受け入れ。 今後の展開:引き続き車両の提供を通じた移動支援を実施し、地域住民が安全で快適なみづからの意思で自立した移動ができる環境を構築していく。

		地域内のコミュニティー活動の実施主体との連携を密に行い、移動支援を通じた外出支援を行うことにより、地域の持続性を高める取り組みを引き続き実施する。
所	感	たすけあいプロジェクトにおいては 70 歳以上の元気な高齢者を対象に人感センサーによる見守り支援の活用は府中市での導入も必要と感じた。また、通院や買い物の移動支援する助け合いカーの提供などの取り組み、その支援策としてボランティアドライバーを募集して里モビリティコムスを運転することで高齢者を同乗させ、移動手段の手助けしているとあったが、実態は登録会員数の減少や、ボランティアドライバーの担い手不足等など多くの課題があるようで、地域の盛り上がりがないように感じた。また里モビリティの生産コストは一台当たり 80 万円とあったが、この里モビリティコムスをだれが管理して事業運営をするのか等の問題もある。このプロジェクト事業の推進は市の積極的関与が必要と考えた。良かった点はコムスの利用料金は法的に自家用自動車有償ができないので利用ポイントの目安を作るなど、ポイント制度の導入でガソリン代などの補填をしている事は理解できる。

視察（研修）報告書

令和5年 10月 19日

府中市議会議長 様

会派名 創生会

日 時	令和5年10月17日
視察（研修）先	愛知県名古屋市 西山商店街
視察（研修）項目	商店街の再生、魅力向上事業
参 加 者	創生会、公明党
視察（研修）内容	西山商店街の沿革 昭和36年西山団地の造成に合わせて作られた商店街 全長100メートルの小さな商店街 昭和40年ごろ最盛期を迎えるが今やシャッター通り 現在では近隣には大型マンションが建設され人口増加 西山小学校生徒数1200名、学区7500世帯 店舗数減少組合解散を余儀なくされている 目的：商店街の空き家店舗を魅力ある形で開いていき、商店街の全体の活性化して外からの人と繋がる開かれた場所になること。 取り組み内容： 1. 外部人材（若手事業者、建築家、学生）などの活用で新しい店舗づくりチームを結成。 2. まちコーディネーター、商店街、新規事業者などで魅力的な商店街づくり構想を考える 3. リサーチステージとしてまちの分析やアイデアの種を発掘する 4. プランニングステージとして事業者を探し事業プランを作りプレゼンテーションをする。その内容としては商店街、店は町の顔であると考え、コミュニティ、文化、歴史を考えながらこれからの町の賑わいを考える。次のステップとしてどのような店舗展開（複合施設、プライベートな空間、小

		さな店舗) など、どのような店舗づくりが必要か考える。 これまでの成果 2019 年 ニシヤマナガヤ誕生 2020 年 未完美術館開店 2021 年 Reading Mug 誕生 2022 年 暮らせる図書館 誕生 2023 年 駄菓子屋水都軒 誕生
所	感	ニシヤマナガヤは先進事例としてメディアにも取り上げられているようですが、近隣の大型マンション建設で人口増加がありこのような事業展開は大いに勝機があると感じたが中山間地域の人口減少、少子高齢化の府中市では参考事例とはならないと感じた。ニシヤマナガヤの店舗成功は各店の付加価値を付けた店舗展開が必要と考える。

視察（研修）報告書

令和 5 年 10 月 19 日

府中市議会議長 様

会派名

創生会

日 時	令和 5 年 10 月 18 日
視 察（ 研 修 ） 先	滋賀県 立命館大学
視 察（ 研 修 ） 項 目	SOFIX 農業推進機構
参 加 者	創生会、公明党
視 察（ 研 修 ） 内 容	目的 化学肥料や農薬に頼らない有機農業の推進は良い土づくりにあり、そのカギを握るのは土の中にいる微生物の状態である。最新技術で土を診断し、必要な肥料を処方することで有機農業を効率的にできるものに変えていく取り組みが必要である。その貢献できる目標として1、飢餓をゼロにする、2、産業と技術革新の基盤つくる、3、陸の豊かさを守ることができる。 取り組み内容 1. 有機農業と化学肥料を使った土を診断する。 土の成分を分析し、微生物の状態を調べると有機農業では微生物が多くいるが、化学肥料を使った農業では微生物や虫が減少している。微生物の生息には有機物が必要である。微生物が気持ちよく生息できる土を作れば窒素、リンなどの循環がよくなり植物も元気になる。 2. 植物の成長の検証 植物の成長には、窒素、リン、カリウムの3要素が欠かせない。化学肥料は3要素が根から直接吸収できる無機物の状態なので即効性があり収穫量を増やしやす、一方では有機肥料は微生物が分解してくれないと吸収できなので時間がかかる。植物の生長を左右する微生物の数や状態を数値で見える化することで適切な有機肥料の種類や量を計算する方法を編み出したのが SOFIX 分析である。

		これまでの成果 株式会社 SOFIX 設立して有機資材の開発や人材育成センター設置をする。SOFIX オリジナル資材として SOFIX エlement、SOFIX パウダー、SOFIX 有機標準土壌などの製品がある。
所	感	環境にやさしい有機農業の推進は食の安全保障につながり、有機農業の転換は政治の力が必要である。従って、久保先生の100%食料自給率の現実には政府の脱輸入の決断以外は100%現実不可能である。この SOFIX 分析の利用は府中市の堆肥センターにも適用できると思われる。そのためには産官学の条件整備が必要である。府中市の農業振興で稼ぐ農業の一案として SOFIX 分析土壌を製品化し販売することも考えられる。すでに青森県、奈良県の自治体では活用する例があると聞いた。今後は民間企業なども参入する可能性もある SOFIX 分析である。府中市の積極的な農業政策で稼ぐ農業の実現に向けた取り組みが必要である。